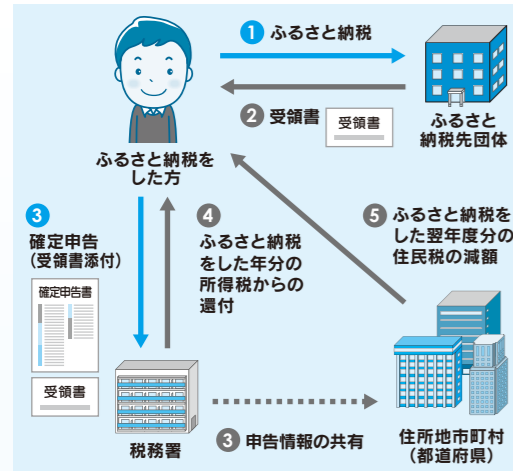


国東市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）

ふるさと納税とは

「納税」という言葉が使われていますが、ふるさと納税は、「税金」の類いではなく、「地方公共団体(市町村・特別区・都道府県)に対する寄附金のこと」を通称、「ふるさと納税」と言っています。通常、税金は自分が住んでいる市町村に納めますが、「自分の出身地(故郷)など、現在住んでいるところ以外の地域にお金を寄附して応援したい!」という発想が、ふるさと納税制度の始まったキッカケです。



また、地方公共団体に寄附をした場合は、確定申告をすれば、その寄附額から2,000円を差し引いた額が、「その年分の所得税」と「翌年分の個人住民税」の税額から控除されます。言い換えれば、ふるさと納税をした場合、金銭的には2,000円が寄附者の費用負担となりますが、現在、全国的なふるさと納税の傾向として、寄附金を受ける側の市町村は、寄附のお礼として、様々な地域の特産品を贈る取り組みを行っていますので、都市住民を中心にふるさと納税をする人が多くなってきました。

国東市にとっての「ふるさと納税」

「特産品をターゲットに寄附をする人が増えてきた事は、ふるさと納税の本来の主旨にそぐわない。」という議論もありますが、ふるさと納税を受け入れる市町村の立場から考えると、①寄附金は貴重な財源となると同時に、②特産品を全国にPRしながら、③特産品を市が市内企業や生産者から購入する事で、地域経済に寄与する。という、ふるさと納税は、いわば、一石三鳥の事業と言えます。

国東市のふるさと納税額と件数

平成27年度 約**11億826万9123円** **3万1011件** (3月末時点)

国東市の「ふるさと納税」の取り組み

- 市内企業、生産者の皆さんの積極的な協力・賛同を得ることが出来ましたので、返礼品の大幅な拡充(約30品目⇒200品目)が実現し、寄附者の注目を集める事が出来ました。
- ふるさと納税のインターネットポータルサイト「ふるさとチョイス」からの申込みを可能とすると同時に即寄附手続きが完了するクレジット決済(ヤフー公金)システムを導入し、手続きの簡素化を図る事が出来ました。



みかん、キウイ、桜王豚、くにさきオイスター(生食用牡蠣)、旬野菜の詰合せなど

人気の返礼品を実際に食べられるお店

桜王豚………国東食彩ZECCO(国東町)、里の駅むさし(武蔵町)、割烹「太喜」(安岐町)
 くにさきオイスター…国東食彩ZECCO(国東町)、割烹「太喜」(安岐町)、海喜荘(国東町)、里の駅むさし(武蔵町)
 ※但し牡蠣が出荷される期間(概ね12月~3月)に限ります。また、予約が必要な場合があります。

「くにさき地方創生推進枠」の財源

国東市の公金を運用した収益と全国の方々からいただいた「ふるさと納税」を活用しています。

国東市の公金管理

公金管理とは

市のお金の管理です。確実性と効率性が重要です。そのために次のことを行っています。
 ①お金の出納(受入・支払)・保管 ②お金の借入 ③余ったお金の運用 ④お金の不正やミスの防止

国東市の公金運用益

会計の運転資金の一部(13億円)とさまざまな目的の基金(131億5千万円)の一部を国債・地方債を中心に運用しています。

国東市の公金運用の取り組み

①会計の運転資金の運用

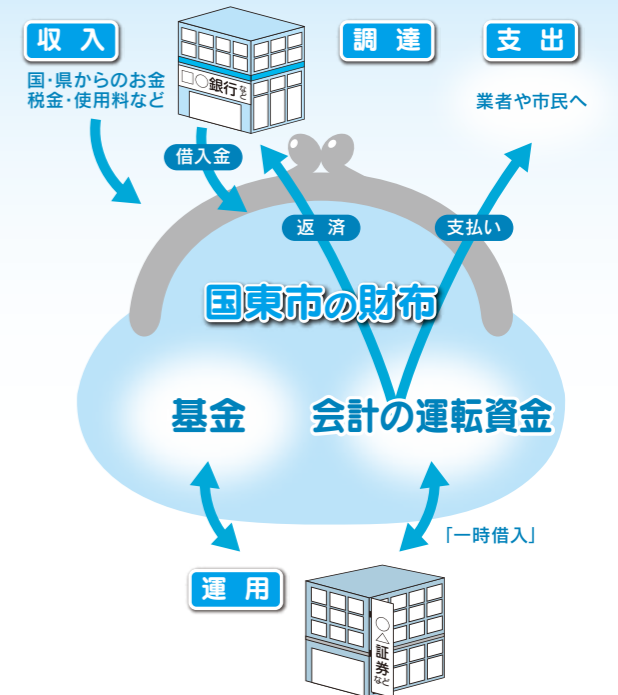
運転資金は一時的に支払資金不足になる時期があるため、どの自治体も預金で保管しています。そこで、市が持つ国債を担保にして証券会社から超低利で一時的借入する仕組みを作って、運転資金の長期運用を可能にしました。

②公営企業や農業公社や基金に分散していたお金をひとつにまとめました

市民病院、工業用水道事業や農業公社、そして18の基金に運用できるお金がありますが、預金での保管が中心でした。そこで、それぞれのお金をひとつにまとめる仕組みを作り、全体を預金で保管するお金と、国債・地方債で運用するお金の分け合いで、取崩しへの備えと効率的な運用の両方の課題を解決しました。

③国債・地方債の運用方法の工夫

国債等は預金と同じように利息での収入がありますが、売却益が得られることがあります。預金利息と売却益の両面から収益を得るようにしています。



これまでの運用実績

平成27年度・・・約**3億円**(1.908%)

平成26年度・・・約**2億1千万円**(1.494%)

平成25年度・・・約**2億2千万円**(1.618%)

※会計の運転資金と基金を合わせた収益、()内は運用利回り

運用益は、平成25年度から**3年連続で2億円**を超えました。

ふるさと応援寄附金2億5千万円と基金運用益5千万円の計3億円で29の事業を行います。